マタイ 4:18-22「あなたの網を捨てよ」

「イエスは、ガリラヤ湖のほとりを歩いておられたとき、二人の兄弟、ペトロと呼ばれるシモンとその兄弟アンデレが、湖で網を撃っているのを御覧になった。彼らは漁師だった。イエスは、『わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしよう』と言われた。二人はすぐに網を捨てて従った。そこから進んで、別の二人の兄弟、ゼベダイの子ヤコブとその兄弟ヨハネが、父親のゼベダイと一緒に、船の中で網の手入れをしているのを御覧になると、彼らをお呼びになった。この二人もすぐに、舟と父親とを残してイエスに従った」

あなたの網を捨てよ。これが今日のメッセージの主題であります。網というのは、わたしたちの生活を支えているところの、大切な手立てのことを表しております。それはちょうど、運転手にとってのタクシー、調理師にとってのフライパン、学校の先生にとってのチョーク、自衛隊員にとってのライフル銃、サラリーマンにとってのパソコンであります。

わたしたちはみな、生きている以上、食べていかなければなりません。何もしないでいて、食べていくことは出来ません。食べていくためには、働かなければなりません。かくして、わたしたちは、自分に合った生活の手立てを何かしら見つけて、それによって、仕事をして、食べることができて、生きることができるようにされているのです。

生活の手立てというのは、いいかげんにしておくことはできません。網を生活の手立てとしているのならば、毎日きちんと網の手入れをしなければなりません。網に穴が開いていたら、魚がするりと逃げてしまうでありましょう。網をきちんと手入れしたとしても、毎日早起きをして海に弁を出し、漁をしなければなりません。昼まで寝ていて弁を出したところで、もう魚はどこかへ行ってしまっているでありましょう。生活の手立てを、きちんとすることと、毎日決まった時間に働くこととは、生きていく上での基本であります。

あなたは、あなたの網を、すでに見つけておられるでしょうか？　あなたは、あなたの網を、毎日きちんと手入れされているでしょうか？　あなたは、あな

たの網を使って、毎日働いておられるでしょうか？

ガリラヤの湖のほとりを歩いておられたイエス様は、何も見ないで、ただやみくもに歩いておられたわけではありません。イエス様は、そこにいる漁師たちが、どのような心がけで働いているのかを、じーっと黙って見つめておられたのです。

その中で、イエス様の目は、ペトロ、アンデレ、ヤコブ、ヨハネの上にとまりました。そうして、イエス様はおっしゃったのです。「わたしについて来なさい。あなたがたを人間を取る漁師にしよう」　これは、あなたがたを選んで、福音の伝道者として立てよう。わたしに従って来なさい、というほどの意味です。

ペトロ、アンデレ、ヤコブ、ヨハネ。この四人の漁師たちは、網を捨てて、イエス様のあとに従って行きました。ここから、物語のすべてが始まったのです。

もしこの四人の漁師たちが、網を捨てなかったとしたら、どうだったでありましょう？　イエス様に従って生きていく伝道者の生活が、とても大変であることを思って、それならこのまま自分の大事な生活の手立てである網を使って生きて行った方が、はるかに楽な暮らしが出来る。そう勘案して、「いいえ、けっこうです」と断っていたら、どうだったでしょう？

イエス様は十字架にかかり、死んで墓に葬られ、三日目に復活し、天に昇り、人類の罪の償いのわざを終えられて、わたしたちに救いをもたらしてくださいました。しかし、それらすべてを最初から最後まで目撃して、その大切な出来事を世界中の人々に伝えるという、福音の伝道者が、もしひとりもいなかったなら？　弟子たちがひとりもいなかったなら？　四人の漁師たちが、網を捨てないで、それどころか、網にしがみついて、イエス様のあとについていくことを拒んだなら？

もしそうだったら、この世界のだれひとりとして、福音を聞くことが出来ず、聞くことが出来ないのですから、信ずることが出来ず、信ずることが出来ないのですから、だれひとり救われることが出来なかったでありましょう。

ですから、イエス様に呼ばれたとき、漁師たちがすぐ網を捨ててイエス様に従っていったのは、まことに大切なことであったのです。

さて、その同じイエス様は、今日わたしたちにも呼びかけておいでです。
「あなたを人間を取る漁師にしよう。網を捨てて、わたしに従って来なさい」

このイエス様のお召しに応えるかどうか、ということは、わたしたちが個人として幸せになるか不幸になるか、という狭い次元を超えた事柄です。むしろ、このイエス様のお召しに応えるかどうか、ということは、人類の救いに関わる重大な事柄なのです。

だからといって、だれでも、やみくもに網を捨てよ、ということが言われているわけではありません。すべての人が網を捨ててしまったなら。すべての人が、食べて行くための生活の手立てを、いとも簡単に捨ててしまったなら。すべての人が食べることが出来なくなり、生きることができなくなってしまいます。

ですけれども、あなたがほんとうにイエス様から呼ばれたなら、そのときには、あなたは「はい」とお応えして、あなたの網を捨てなければなりません。そうして、すべての人ではないけれども、選ばれた人々が、イエス様からそういうお声かけを頂戴するのです。「あなたを人間を取る漁師にしよう。網を捨てて、わたしに従って来なさい」　そういうお声かけであります。

救世軍の創立者ウイリアム・ブースが、このイエス様からのお声かけを頂いたのは、彼がまだ子どもの時でありました。少年ブースは、お父さんが事業に失敗して貧乏になり、自分はまだ子どもであるのに質屋に奉公に出されて、大変厳しい主人もとで働かなければなりませんでした。質屋の帳簿とペンが、少年ブースにとっての生活の手立てであったのです。質屋には、生活に食い詰めた貧しい人たちが、毎日やって来ました。そうして、時計や指輪、上着や毛布を質に入れては、お金を借りて、細々と食いつないでいたのです。少年ブースは、そうした光景を毎日つぶさに見つめながら、貧困がどんなに悪であるかとういことを、心に深く思いました。そうして、この貧しい人たちを、なんとかして

救うことが出来ないものかと、一生懸命考えるようになりました。そういう中で、少年ブースは、イエス様からのお声かけを頂戴したのです。「あなたを人間を取る漁師にしよう。網を捨てて、わたしに従って来なさい」　少年ブースは、質屋の帳簿とペンを捨てて、それはすなわち、自分にとっての網を捨てて、福音伝道者となりました。そうして、貧しい人々が住むスラム街で、人々を助け、福音を伝える働きに没頭し、やがて神様の導きによって、救世軍を設立するようになったのです。

もし少年ブースが、自分の網にしがみついていたなら？　もし少年ブースが老人ブースになるまで、質屋の店先に座って仕事を続けていたなら？　ブースは何不自由ない生活が出来たでしょうが、救世軍がこの地上に姿を現すことは永遠になかったでありましょう。「あなたの網を捨てよ」とは、実に重大な事柄であります。

救世軍の最初の日本司令官、山室軍平は、イエス様からのお声かけを頂いたのは、やはり彼が若い頃のことでありました。少年軍平は、岡山から家出をしてひとりで東京までやってきて、築地にある活字工場で労働者として働いておりました。お昼休みにぶらぶらと散歩をしていたところ、路傍伝道をやっているキリスト者の一団と出会いました。一枚のトラクトをもらって、熱心に道を求めるようになり、築地の教会に出席して、イエスキリストを主として、救い主として、心の中にお迎えする決心をいたしました。しかし、困ったことがひとつありました。教会の牧師が語るお説教が、あまりにむずかし過ぎて、自分にもあまりよくわからなかったということです。ですから、少年軍平が、工場の仲間たちに一緒に教会に行こうと誘っても「だれがあんなむずかしい話を聞きに行くものか。教会なんておれたち労働者が行くところじゃない」と、すげなく断られてしまったのでした。
少年軍平は、どうにかこの労働者の仲間たちにも、聞いてわかるように、復員をかんでふくめて、わかりやすく伝えることができないものかと、一生懸命考えるようになりました。そういう中で少年軍平は、イエス様からのお声かけを頂いたのです。「あなたを人間を取る漁師にしよう。網を捨てて、わたしに従って来なさい」　少年軍平は、工場の活字の棚の間にひざまづいて、自分自身を労働者の救いのためにまったくささげるお祈りをして、福音伝道者となりまし

た。やがて、日本に救世軍を開くためにやって来たライト大佐の一行と出会って、救世軍に入隊して、日本人士官の第一号となり、日本救世軍の父と呼ばれるほどの働きをしたのです。

もし少年軍平が、活字工場の活字棚にしがみついたままだったなら？　活版印刷の活字を鋳物で作る仕事をずっとそのまま続けていたなら？　山室軍平は何不自由ない生活が出来たでしょうが、救世軍が日本で大きな成功を収めることは出来なかったでありましょう。「あなたの網を捨てよ」とは、実に重大な事柄であります。

聖潔の教師と言われたサムエル・ブレングルは、イエス様の最初のお声かけを頂戴して、大学で一生懸命勉強して卒業した後、メソジスト教会の牧師として四年間働きました。若きブレングルの説教を聞いて、多くの人々がイエス様を信じて、救われました。そのあと、青年ブレングルは神学校に入って、さらにむずかしい神学の勉強をすることにしておりました。そうすれば、大きな教会の主任牧師になる道が開かれるからでした。しかし、青年ブレングルは救世軍と出会いました。救世軍の集会に出て、その祈り、その歌、その証し、その説教、その救世軍人たち、その恵の座に触れる中で、ブレングルは、救世軍こそ自分が属すべき場所だ、と確信するようになりました。そうして、自分が牧師をやめて救世軍士官になることを、一生懸命考えるようになりました。そういう中でブレングルは、イエス様のお声かけを聞いたのです。「あなたを人間を取る漁師にしよう。網を捨てて、わたしに従って来なさい」　ブレングルは、牧師の仕事を投げ打って、候補生となって救世軍士官学校に入校し、神と人とに奉仕する救世軍士官の生活を始めました。
ブレングルはボストンの小さな小隊（教会）に小隊長として任命されました。前の小隊長が不祥事を起こしたために、戦友がみんなつまづいてしまって、誰も来なくなってしまっていた、さびしく悲しい小隊でありました。集会を開きます、酔っ払いばかりやって来て、暴れたり怒鳴ったりするような具合でした。小隊には、大男の黒人と、背の小さな白人の女の子がいて、ブレングルは三人一緒に野戦（路傍伝道）をやりました。ある晩、町で一番大きな教会の前を三人で歌いながら行軍（行進）しておりました。もしブレングルが、神学校を出て神学博士号を取っていたなら、きっとその大きな教会の主任牧師として迎え

られていたに違いありません。でも、ブレングルは、これでよいのだ、と言い聞かせました。やがてブレングルは、小隊の玄関から出たところを、酔っ払いにレンガでもってしこたま頭を殴られ、意識不明の重態となりました。病院で命を取り留めはしたものの、長い長い間入院生活をしなければなりませんでした。すこし元気になって来たときに、ブレングルは鉛筆と紙をとって、文章を書き始めました。そうして出来たのが『聖潔の栞』という本です。この本には、ひとはどうしたら聖霊に満たされ、罪からまったくきよめられ、神様に用いられる人になれるか、ということが、とてもわかりやすく書かれています。ブレングルが書いた『聖潔の栞』は、たちまち世界各国の言葉に翻訳されて、救世軍人ばかりでなく、世界中のキリスト者に聖潔の祝福をもたらすようになりました。
もし青年ブレングルが、そのまま神学校で勉強を続けて、神学博士号を取り、大きな教会の主任牧師におさまり、生涯牧師として働いたならば、どうだったでしょうか？　ブレングルは何不自由ない生活が出来たでしょう。でも、もしそうだったなら、ブレングルがボストンの小隊に遣わされることもなく、遣わされなかったのですから、レンガで頭を殴られることもなく、殴られないのですから、ベッドの上で『聖潔の栞』を書くこともなかったでありましょう。そうして、世界中の多くのキリスト者が、『聖潔の栞』を読むことが出来ず、そのために、聖潔の恵みに入り損ねたことでありましょう。「あなたの網を捨てよ」とは、実に重大な事柄であります。

あなたの網は、何でありましょうか？　あなたは、イエス様からのお声かけを聞いておられるでしょうか？　もし聞いておられるとしたら、あなたは、あなたの網を捨てよ、と言われておるのです。そこで、あなたは、一生懸命お祈りして、一生懸命考えなければなりません。自分が網を捨てた場合と、自分が網を捨てなかった場合と、この二つを比べて、一生懸命考えなければなりません。その上で、神様のお声に対して、自分が何と返事をするかを、決めなければなりません。

救世軍士官になるということは、網を捨てて、イエス様のあとに従って行くということです。

米国中部軍国の救世軍士官、メリッサ・フライ大尉は、こう言っております。
「救世軍士官は、自分の網を捨てて主に従うよう召されます。家と車を売り、家族と仕事を離れ、経歴や出世を捨てることを選びます。この世で成功したいという、だれもが抱く欲望を、神様が取り除いてくださると信頼して。救世軍士官は、良い働きをし、神の国に魂を勝ち取っても、賞賛と報酬を求めません。救世軍士官は、伝道に成功しても、この世の仕事のような昇給は期待しません。救世軍では、神の与えたもう祝福と報酬で満足し、この世の人間的な感情から離れるよう、求められます。士官は『神の僕』として召されており、自分が生きる土地、住む家、乗る車、着る服を選ぶ自由を明け渡します。伝道の専門分野や、学歴を生かした働きを選ぶ自由をも明け渡すのです。一生小さな町で費やすかもしれないことを受け入れ、犠牲的な生活を実践し、神の与えてくださる報酬で満足し、失われた魂、貧しい人、疎外された人に働きかけ、友のない人の友となり、助けを要する人に手を貸し、倒れた人を引き上げます。救世軍士官は、万人が理解できる言葉で福音を説教します。福音を割り引くのでなく、誰もが理解して養いを受けられるラベルで真理を語るのです。それゆえ、士官に召されるのは、特別な人々です。自分に期待されていることを思うとき、自分には資格がないし、求めに応える能力も欠いていると思います。士官は一年365 日 24 時間の召命であり、やり遂げることは容易ではありません。しかし感謝すべきことに、神はわたしたちの限界をご存知であり、わたしを召したもう神は、また助けをも与えてくださると信じています」

あなたはイエス様のお声かけを聞いているという、そういう人でありましょうか？　あなたは、あなたの網を捨てて、イエス様に従うべき人ではありませんでしょうか？

G.K.チェスタートンは、こう申しました。「結婚と、手紙をポストに投函することと、最もロマンチックなことである。なぜなら、どちらも、取り返しのつかないことであるから」
そうであるなら、このイエス様のお声かけを聞くということ。あなたが、あなたの網を捨てて、イエス様にお従いするということ。それは、この世界で、最もロマンチックなことであります。お祈りいたしましょう。

祈り

御父よ。あなたが今日、御子イエスキリストを通して、わたしたちに語りかけたもうところのあなたのお声を、わたしたちが聞くことが出来ますように。
そのあなたのお声が「あなたを人間を取る漁師にしよう。網を捨てて、わたしに従って来なさい」というものであるならば、どうかわたしたちが勇気をもって、今日自分のなすべき決断をなすことができますように、お導きください。
主イエスキリストの御名によってお祈りいたします。アーメン